

おいしく
楽しく

朝ごはん

料理コンテスト



健康でいきいきと年を重ねるためには、日々の食事が大切です。忙しい朝は、なかなか栄養バランスが整った食事をするのが難しいもの。市では、手軽に栄養バランスの取れる朝食メニューを募集します。あなたの朝食レシピを応募してみませんか？ 親子参加も大歓迎です！

応募方法

多くの方
ご参加を
お待ちしております！



コンテストを企画したのは、
私たち市の介護予防プロジェクトチームです！

応募資格 市内に在住または通勤、通学している方

※小学生は親子でも参加可

内容 手軽な朝食メニュー（30分以内で調理できるもの）。主食、主菜、副菜がそろっているもの（主食、主菜、副菜が分かれていても、兼ねていても可）。石狩産の食材を1つ以上使う

※詳しくは応募要項をご覧ください

申込方法 所定の応募用紙に必要事項を記入し、料理の写真を添付の上、提出（郵送・Eメール可）

※応募用紙は保健推進課、厚田支所、浜益支所、あい・ボード、市ホームページから入手できます

申込締切 7月20日（水）

申込・問合せ 保健推進課 ☎72-6124

✉hokens@city.ishikari.hokkaido.jp

賞品

協賛／（社）石狩観光協会

最優秀賞
（1作品）

季節の石狩産食材
詰め合わせ

優秀賞
（5作品）

季節の石狩産食材

※応募者全員に参加賞あり

審査方法

1次審査は書類審査。2次審査は実際に応募料理を作ってもらい、審査員が試食審査を行います。審査委員長は料理研究家の東海林 明子氏です。

2次審査

日時 8月9日（火）10:00～13:00

場所 花川北コミセン



昨年の
2次審査の様子



石狩市の大地震、津波記録

東日本大震災以来、「石狩市では過去、大地震などがなかったのか」という質問が多く寄せられています。そこで今回は石狩市で起きた大地震、津波について書いてみます。

皆さんは「石狩地震」という名を聞いたことがありますか。これは天保5（1834）年、今から180年近く前、石狩川河口付近を震源域として起きた市内最大の地震のことです。

地震は冬、旧暦1月1日に起き、マグニチュード6.4、最大震度6と推定されています。地震の原因や再来期（再び起こる時期）は分かっています。記録はごく少ないのですが、江戸の人の日記や松前藩に残る文書などから当時の状況がうかがえます。

江戸の人の日記（『天保雑記』）に「天保5年1月1日石狩国地強く震い、屋舎破倒し、地裂け、泥沙噴出す、沿岸の地には津波打寄せたり、この日江戸も少しく震へり」と書かれています。「地裂

け、泥沙噴出す」とありますから、「地割れ」や「液状化」が起きたのでしよう。実際、市内や札幌市の低湿地では、この地震によると考えられる「地割れ」や「液状化」の跡が見つかっています。さらに「沿岸の地には津波が打寄せた」と書かれていますから、津波も発生したのでしよう。この地震による被害は、人的にはなかったものの、80軒以上の建物が全半壊したとされています。

『松前町年寄詰所日記并番日記』という文書では、2月1日も大地震が起こり、石狩市本町地区にいた和人、アイヌ人は今の小樽や厚田に避難したと書かれ、松前藩では冬にもかかわらず調査隊を出したようです。

また『北海道蝦夷語地名解』によると、浜益区の尻苗の近くに「シリトイエ」というアイヌ語地名があり、これは「山が崩壊した」という意味だとしています。弘化3（1846）年の松浦武四郎の記録にも「シリナエ」此辺近年大

地震有りて崩れしとて、其跡に樹木草茅一株もなし」と書かれており、石狩地震のつめ跡が地名となつて残ったものと考えられます。このほかに寛政4（1792）年の積丹沖地震と文久3（1863）年の天塩沿岸の地震による津波があったようですが、被害は小さかつたようです。

（石橋孝夫）



▲かつて石狩川河口付近を震源域とする地震があったことも。

【参考文献】

- 石狩市（2003年）『石狩市年表』
 石狩町（1972年）『石狩町誌』上巻
 笠原稔・宮崎克宣（1998年）「札幌市とその周辺の歴史地震と最近の地震活動」北海道大学地球物理学研究報告61
 永田方正（1890年）『初版 北海道蝦夷語地名解』1984年復刻版
 松前町（1973年）「松前町年寄詰所日記并番日記」松前町史資料編2
 松浦武四郎著、翻刻・編秋葉實（1999年）『校訂蝦夷日誌二編』

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館

☎62-3711 ✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp